



森林レンジャーあきる野新聞

Vol.3

2010年8月号

発行：森林レンジャーあきる野

秋川丘陵ハイキングコースの巡視（8月10日）



ヤマザクラの老木



竹林内のハイキングコース

この日の巡視はサマーボウルの駐車場脇から尾根に上がりました。コンクリート偽木で作った階段があり、草が多少茂ってはいましたが足元のしっかりした道といえます。尾根までの登りは、急な坂道となり、このコースで一番の我慢の道となりました。谷筋ではミズキなどが多く、尾根に近づくにつれコナラとモミが目立つようになりました。コナラの中高木の中にモミの大木が散在する多摩の典型的な風景が尾根道沿いに続いており、緑の中を歩きながら開放感を味わうことができます。この尾根道は、幅も広く会話を楽しみながら歩くことができるコースといえます。

またこの尾根道には、ヤマザクラの大木（高木）が尾根沿いに散在していることに気付きました。林冠の上に葉を茂らし元気に育つサクラが多く見受けられ、来年の花の頃がとても楽しみです。サクラの本数を数えなかった失敗はありましたが、100本を超える数のサクラが、尾根筋から両幅30メートル位の間には散在していると推測されます。まさに尾根道を歩く者のみが見ることのできる桜並木です。皆さんも、ぜひ花の頃合を見て、秋川丘陵を訪ねてみてください。

レンジャーの日々

| | |
|---|---|
| ① | ② |
| ③ | ④ |
| ⑤ | ⑥ |

写真

・菅生若宮子ども体験イベント

桜の木を輪切りにし名札をつくりました。最後はみんなで竹の弓矢を工作。この勇姿を見よ！（①、②）

・ハイキングコースでの倒木処理

秋川丘陵の倒木をノコギリで処理しました。見通しはこのとおりです。

（③、④）

・千ヶ沢の見所発掘調査

真夏日の調査でしたが沢沿いはヒンヤリして気持ちよかったです。暑い日はアズマヒキガエルも滝で水浴びですかね？（⑤、⑥）



レンジャーが注目！ ～テーマ「森の宝物」～

レンジャーがテーマに沿って、あきる野市の自然や動植物などを紹介、解説します。

今回は杉野隊長と佐々木隊員が担当します。



菌根菌（きんこんきん）

最近、菌類の研究も進み、菌根菌などキノコの仲間が周りの植物と共生関係を結ぶことがわかってきました。植物の光合成で作られた有機物を菌類がもらい、逆に菌類は分解した無機物を植物に与えるといった共生関係です。また、菌類の菌糸が植物の根を保護することもあるようです。やせた尾根にマツやモミの大木が育つのもこの菌根菌との共生関係があるからといわれています。

しかし、その菌根菌をだまして養分だけもらって生活する植物があります。うす暗い林床に自生するギンリョウソウです。この植物は、葉緑素をもたないため自分では光合成を行えず、ベニタケ科のキノコの菌糸に寄生して養分をもらって生活します。このギンリョウソウ、自分の体を美味しそうな餌（有機物）として、ベニタケ科のキノコの菌糸を誘い込み、その菌糸から栄養をもらって生活する植物なのです。

ギンリョウソウは、菌根菌に共生できるパートナーであることを装い、養分だけいただくといった戦略で生きています。（杉野）

「教えて隊長！ 菌根菌ってなに？」

菌根菌は、キノコの仲間です。生きている植物と仲良くしながら生活している菌類です。

落ち葉や枯れ枝から木が育つ養分（肥料）をつくり、木の根に吸わせてあげます。そして菌根菌は、植物の根から葉っぱで作った養分をもらい、お互いに仲良く暮らします。

木も、菌根菌と一緒に菌根菌が根つこの周りで肥料を作ってくれるので、元気に育っていきます。



ギンリョウソウ

森で出会う昆虫たち

みなさんこの夏休み虫捕りに行きましたか？

梅雨が終わり空に青空が戻ると急に森の中は昆虫で騒がしくなります。樹液が発酵し甘酸っぱい匂いが漂うコナラなどの木々には、みなさんご存知のカブトムシやクワガタの仲間などが集まります。森林レンジャーは太陽が照りつける時間帯に作業をしていることが多いので、残念ながら角の立派なカブトムシや大顎の湾曲おおあご わんきょくが美しいミヤマクワガタ、ノコギリクワガタには出会っていません。やはりオスのカブトムシやクワガタの観察は夜に限りますね。

ただ日中観察できる蝶の仲間にはたくさん出会いました。特に印象に残っているのが、林道の水溜りで吸水するカラスアゲハです。太陽の日差しを受けると緑色に輝く鱗粉りんぷんがとても美しく、ひらひらと舞う姿に見とれてしまいました。（佐々木）



水溜りで吸水するカラスアゲハ



樹液を吸うカブトムシのメス